

## 学会員（教員）研究動向 [2022.4～2023.3]

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
秋葉 武	論文(単著)	「韓国における雇用・福祉政策と市民社会—社会的経済の定着過程—(上)」(『立命館産業社会論集』第58巻第3号)135-143頁	2022.12
	論文(単著)	「韓国における雇用・福祉政策と市民社会—社会的経済の定着過程—(下)」(『立命館産業社会論集』第58巻第4号)69-77頁	2023.3
	研究発表等 (共同)	「NPOの組織基盤強化の20年—Panasonic NPO サポートファンドの成果の検証—」(秋葉武・阿部真紀・田口由紀絵・山崎宏, 日本NPO学会第24回研究大会)	2022.6
	その他 (単独講演)	“The Climate Crisis and NPO/NGOs in Japan (An Era of Great Change, Finding Ways for ‘Security of Life’ and ‘Climate’ under the Korea Peace Foundation auspices)” (An Era of Great Change, Finding Ways for ‘Security of Life’ and ‘Climate’)	2022.6
その他 (単独講演)	「カーボンニュートラル社会のための日韓市民連帯」(2022 日韓市民100人未来対話:韓国国際交流財団主催)	2022.11	
有賀 郁敏	著書(編著)	『スポーツの近現代—その診断と批判—』(ナカニシヤ出版)第2章:「トゥルネン協会の歴史的 성격」25-84頁, 第15章:「東京パラリンピックと新自由主義」357-382頁	2023.3
	論文(単著)	「ウクライナ危機とスポーツに関する省察—「非ナチ化」の教訓—」(『立命館産業社会論集』第58巻第1号)49-67頁	2022.6
	論文(単著)	「阿部生雄先生の学問的問いかけ—現代社会と歴史認識の行方—」(『阿部生雄先生追悼記念集録』)45-55頁	2022.12
	論文(単著)	「新自由主義による社会とスポーツのアポリア—新型コロナウイルスによる日本の公共圏の危機—」(『有賀ゼミ論文集』)275-291頁	2023.3
	翻訳(共訳)	ミヒヤエル・クリューガー「ドイツにおけるトゥルネン・スポーツ組織の生成と展開」(有賀郁敏編『スポーツの近現代—その診断と批判—』ナカニシヤ出版)3-19頁	2023.3
	その他(単著)	「「新しい戦前」ではなく「希望の空」へ—他者とともに社会の主人公になろう—」(『卒業論文集—余暇社会の歴史と現代—』立命館大学産業社会学部有賀郁敏ゼミ)1-12頁	2023.3
	その他(単著)	「大学スポーツのこれからを考える」(『さんしゃ Zapping』Vol.37 No.2(通巻203号))20-27頁	2023.3
	その他(単著)	「はしがきにかえて—思考することの大切さ—」(有賀郁敏編『スポーツの近現代—その診断と批判—』ナカニシヤ出版)i-vi 頁	2023.3
飯田 豊	著書(共著)	『青少年のメディア・リテラシー育成に関する放送局の取り組みに対する調査研究報告書』(放送倫理・番組向上機構 [BPO]放送と青少年に関する委員会, 放送倫理・番組向上機構 [BPO])全111頁	2022.6
	著書(分担執筆)	『1970年代文化論』(日高勝之編著, 青弓社)224-252頁	2022.8
	著書(分担執筆)	『自由に生きるための知性とはなにか—リベラルアーツで未来をひらく』(立命館大学教養教育センター編, 晶文社)177-206頁	2022.9
	著書(共著)	『ビデオのメディア論』(永田大輔・近藤和都・溝尻真也・飯田豊, 青弓社)11-76頁	2022.10

飯田 豊	論文(単著)	「コミュニティメディアの考古学 ―初期ビデオアート、CATV、災害の記録（特集：東日本大震災。百年経ったら―記憶・継承・忘却）」(立命館大学生存学研究所『立命館生存学研究』vol.6)25-30頁	2022. 8
	論文(単著)	「日本メディア学会にとって、メディア研究とは何か ―「実務者」、「市民活動」、「メディア・リテラシー教育」を手がかりに」(日本メディア学会『メディア研究』101号) 3-22頁	2022. 8
	論文(単著)	「「テレビ離れ」を補助線に、メディア研究のフロンティアを考える」(NHK放送文化研究所編『放送メディア研究』第15号)88-95頁	2022.10
	論文(共著)	「青少年のメディア・リテラシー育成に関する放送局の取り組みに対する調査研究 ―2019～21年度BPO 青少年委員会によるアンケート調査から」(飯田豊・中橋雄・松村菜摘子・中村介, 新情報センター『新情報』vol.110) 8-16頁	2022.11
	論文(単著)	「大阪万博とビデオ・アート ―中谷芙二子の「3つの顔」(科研費(基盤B)「万国博覧会に見る「日本」―芸術・メディアの視点による国際比較」最終報告書(研究代表者: 暮沢剛巳))19-25頁	2023. 3
	研究発表等(単独)	「テレビの可能態 ―メディア考古学の視座から」(第9回革新的意味創出研究会)	2022. 7
	研究発表等(共同)	「地域の社会情報とメディア・アーカイブのこれからを考える ―佐藤真監督『阿賀に生きる』と冥土連の30年」(社会情報学会2022大会)	2022. 9
	研究発表等(共同)	「BPOと放送局、視聴者のギャップを埋めるには: 青少年委員会「痛みを伴うことを笑いの対象とするバラエティー」に関する見解から考える」(佐藤研・中井孔人・山下玲子・飯田豊, 日本メディア学会秋季大会)	2022.11
	研究発表等(単独)	「大阪万博とビデオ・アート」(シンポジウム「万国博覧会における「日本」―芸術・メディアの視点による国際比較」)	2022.12
	研究発表等(単独)	「メディアとしての博覧会資料 ―アート・アーカイブ利用の経験から」(万博学研究会シンポジウム「博覧会資料のアーカイビングを考える」)	2022.12
	研究発表等(単独)	「主としてメディア論の観点からのコメント」(青少年研究会「場所から問う若者文化 ―ポストアーバン化時代の若者論」(晃洋書房、2021年)合評会)	2023. 1
	その他(単著)	「受け手のメディア・リテラシー育成活動 知見の共有・体系化、局越えた連携に課題」(日本民間放送連盟『民間放送』2022年4月27日号) 2頁	2022. 4
	その他(単著)	「ガーシーにコレコレ……暴露系 YouTuber に見るポスト・トゥルース時代のメディア・リテラシー」(『サイゾー』2022年4・5月号)32-33頁	2022. 4
	その他(共著)	「第3部 全体討論（特集：東日本大震災。百年経ったら―記憶・継承・忘却）」(大友良英・藤井光・水出幸輝・飯田豊・美馬達哉・Roth Martin・有馬恵子, 立命館大学生存学研究所『立命館生存学研究』vol.6)35-42頁	2022. 8
	その他(共著)	「これからのメディアと、メディア研究を考える ―文研75周年記念シンポジウム」載録(村松泰子・伊藤守・飯田豊・村上聖一・宇治橋祐之, NHK放送文化研究所編『放送メディア研究』第15号)11-52頁	2022.10
	その他(単著)	「「メディア・イベント」としての国葬 対立や分断の根深さ 改めて浮き彫りに」(日本民間放送連盟, 民放 online)	2022.11
	その他(単著)	「放送界によるメディアリテラシーの取り組みと課題(1)放送局の活動と学び」(放送批評懇談会『GALAC』2022年12月号)26-29頁	2022.11
その他(単著)	「放送局の取り組みに学ぶ」(法政大学図書館司書課程『メディア情報リテラシー研究』第4巻第1号)19-21頁	2023. 2	
石田賀奈子	論文(単著)	「児童養護施設を経験した若者の幼少期逆境体験に関連する要因」(厚生労働統計協会『厚生指標』第69巻12号)16-22頁	2022.10

石田賀奈子	研究発表等 (共同)	「市町村レベルでの親子支援の現状についての報告—3年間の市町村調査を元に—」(大澤ちひろ (筆頭)・和田一郎, 日本子ども虐待防止学会 第28回学術集会ふくおか大会)	2022.12
	研究発表等 (共同)	「子どもの意見表明支援のこれから～児童福祉におけるアドボカシー活動の専門性の確立にむけて～」(石田賀奈子 (企画者)和田一郎・伊藤嘉余子・西村英一郎, 日本子ども虐待防止学会 第28回学術集会ふくおか大会)	2022.12
石田 智巳	論文(共著)	「丹下保夫の運動文化論構築過程における春田正治の影響:春田—丹下論争について」(石田智巳・制野俊弘, 日本体育学会 『体育学研究』67巻)845-857頁	2022.10
市井 吉興	著書(分担執筆)	『スポーツの近現代:その診断と批判』(有賀郁敏編, ナカニシヤ出版)	2023. 3
	論文(単著)	「ポスト2020のスケートボードスケープ:カンタン=プロの「預言」を越えるには?」(立命館大学人文科学研究so 『立命館大学人文科学研究so紀要』135)131-156頁	2023. 3
	研究発表等 (単独)	「どのようにしてバルクール (Parcours)はバルクール (Parcours)となったのか:エベルの「メトド・ナチュレール」のポストコロニアルな転用に関する一考察」(日本体育・スポーツ・健康学会第72回大会)	2022. 9
	研究発表等 (単独)	「[「バルクールのパラドクス」をめぐるスポーツ社会学と文化犯罪学との「対話」の試み」(日本スポーツ社会学会 第32回大会)	2023. 3
伊東 寿泰	著書(単著)	『これで変わる!あなたの英語力!～英語の環境作りのススメ～』(ヨベル)	2023. 1
乾 亨	著書(単著)	『神戸市真野地区に学ぶこれからの「地域自治」—地域のことは地域で決める、地域の者は地域で守る—』(東信堂)	2023. 3
上原 徳子	論文(単著)	「唐代伝奇「聶隱娘」についての一考察—映画との比較から—」(『立命館産業社会論集』第58巻第3号)145-157頁	2022.12
	研究発表等 (単独)	「中国古典小説研究における「女性」をめぐる視点について」(中国古典小説研究会2022年度大会)	2022.12
漆原 良	著書(分担執筆)	『スポーツの近現代:その診断と批判』(有賀郁敏編, ナカニシヤ出版)	2023. 3
	研究発表等 (単独)	「主動筋および拮抗筋に対する手掌接触による運動学習への影響」(日本生理人類学会第83回大会)	2022.10
呉 世雄	論文(共著)	「在宅介護における新型コロナウイルスの影響—家族介護者の介護生活の変化とその関連要因」(富田絢子・呉世雄, 日本地域福祉研究所 『コミュニティソーシャルワーク』30)66-79頁	2022.12
	研究発表等 (単独)	「日本における孤独死の現状と対策」(韓国社会保障情報院2022年度学術セミナー)	2022. 8
	研究発表等 (単独)	「日本における社会福祉法人制度の運営とアイデンティティ確保」(2022年ソウル福祉フォーラム)	2022.11
大谷いづみ	著書(その他)	「解説 それぞれの「良い死/唯の生」」(立岩真也『良い死/唯の生』筑摩書房 (ちくま学芸文庫))	2022.12
	論文(共著)	「特集趣旨」(川端美季・大谷いづみ, 立命館大学生存学研究所 『立命館生存学研究』vol.6)45-47頁	2022. 8
	論文(単著)	「開会挨拶」(立命館大学生存学研究所 『立命館生存学研究』vol.6)49-50頁	2022. 8
	論文(単著)	「分断ではなく架橋へ—何らかの「困りごと」をもつ学生と何らかの「困りごと」をもつ教員支援の未来」(立命館大学生存学研究所 『立命館生存学研究』vol.6)87-89頁	2022. 8

大谷いづみ	研究発表等 (共同)	「『PLAN 75』トーク・セッション」(早川千絵・斎藤真緒, 『PLAN 75』上映会&トークイベント)	2022.12
	研究発表等 (共同)	「教育におけるアクセシビリティと障害学生の存在が拓く SDG's 社会の未来」(大谷いづみ・川端美季, 第11回革新的意味創出研究会)	2023. 1
	研究発表等 (共同)	「『PLAN 75』上映会&トークイベント報告」(大谷いづみ・川端美季, 2022年度人間科学研究所年次総会)	2023. 1
	その他(単著)	「ただ生きて存 (あ)る命がリスペクトされる未来を創りたい」(ハビネットファントム・スタジオ編 『PLAN 75』(映画パンフレット))12-13頁	2022. 6
	その他(単 独講演)	「『障害のある教員』の職場復帰のプロセスと課題」(立命館大学土曜講座2023年1月テーマ「障害のある先生が仕事を続けるということ——障害と教育の交わる場所」)	2023. 1
大谷 哲弘	論文(共著)	「高校生を対象とした問題解決訓練における抑うつ低減効果の検討—活性化と回避の機能的変容に焦点を当てて—」(杉山智風・高田久美子・伊藤大輔・大谷哲弘・高橋史・石川利江・小関俊祐, 『認知行動療法研究』48巻2号)285-295頁	2022. 9
	論文(共著)	「育児休暇からの復職不安の事例における明確化・直面化・解釈の実際—心理療法における「小さく鈍い関わり」とは何か—」(山本奨・大谷哲弘, 『立命館産業社会論集』第58巻第2号)17-35頁	2022. 9
	論文(共著)	「計量テキスト分析を用いた事例研究の可能性—KH Coder による心理臨床1事例検討の試み—」(山本奨・大谷哲弘, 『立命館産業社会論集』第58巻第3号)51-67頁	2022.12
	論文(共著)	「東日本大震災の激甚の津波被災地に勤務した教師のストレス—発災7年目の調査から—」(山本奨・大谷哲弘, 『岩手大学教育学部附属教育実践・学校安全学研究開発センター研究紀要』第3巻)121-126頁	2023. 3
	論文(共著)	「高校生のキャリア被援助感の測定の試み」(山本奨・大谷哲弘・下権谷久和, 『学校カウンセリング研究』第23巻)17-24頁	2023. 3
	論文(共著)	「高校生のキャリア被援助感の構造の探索」(山本奨・大谷哲弘・下権谷久和, 『学校カウンセリング研究』第23巻)9-16頁	2023. 3
	論文(共著)	「教師のメンタルヘルス研修会で扱うことが求められるストレスの諸側面—「自分の問題」としての理解と「知識」としての理解—」(山本奨・大谷哲弘, 『岩手大学大学院教育学研究科研究年報』第7巻)199-206頁	2023. 3
	論文(共著)	「教師のストレスに対する納得方略」(山本奨・大谷哲弘, 『岩手大学大学院教育学研究科研究年報』第7巻)189-198頁	2023. 3
	論文(共著)	「教師のストレスが対処行動とストレス反応に与える影響—ストレスの経験, 挑戦, 忍耐の3側面の検討—」(山本奨・大谷哲弘, 『岩手大学教育学部研究年報』第82巻)97-108頁	2023. 3
岡田 桂	著書(分担執筆)	『ポストヒューマン・スタディーズへの招待』(竹崎一真・山本敦久・杉山文野・岡田桂・渡部麻衣子・標葉靖子・隠岐さや香・久保友香・関根麻里恵・田中東子・重田園江・山本由美子・門林岳史, 堀之内出版)	2022. 4
	著書(共著)	『スポーツとLGBTQ+: シスジェンダー男性優位文化の周縁』(岡田桂・山口理恵子・稲葉佳奈子, 晃洋書房)	2022. 9
	著書(分担執筆)	『スポーツの近現代: その診断と批判』(有賀郁敏編, ナカニシヤ出版)	2023. 3
	論文(単著)	「トランスジェンダー・アスリートとスポーツの臨界: 身体の多様性と公平性のどこに境界線を引くか」(『体育の科学』72巻8月号)522-527頁	2022. 8

岡本 尚子	論文(共著)	「産後の夫婦の家事分担と妻の QOL の関連：「いばらきコホート調査」をもとに」(神崎真実・孫怡・妹尾麻美・肥後克己・中田友貴・鈴木華子・矢藤優子・安田裕子・岡本尚子・サトウタツヤ, 『日本保健福祉学会誌』29巻1号)15-23頁	2022.10
	研究発表等 (共同)	「ドラマ視聴時における男女の着眼点の違い—恋愛ドラマに着目して—」(岡本尚子・樋口陽香・黒田恭史, 第40回日本生理心理学会大会)	2022.5
	研究発表等 (共同)	「メンタルローテーション課題における視線移動と脳活動の探索的検討」(近藤竜生・岡本尚子・黒田恭史・田邊宏樹, 教育システム情報学会2022年度 第1回研究会)	2022.5
	研究発表等 (単独)	「日本語指導を必要とする児童の算数文章問題遂行時の課題—視線計測データを中心に—」(第35回日本保健福祉学会学術集会)	2022.10
	研究発表等 (共同)	「自然体験活動場面における危険予測時の視線特徴—初心者と経験者の比較—」(岡本尚子・黒田恭史, 日本教育実践学会第25回研究大会)	2022.11
	研究発表等 (共同)	「2人による打楽器演奏中の脳活動計測—fNIRS 装置による前額部の相関—」(江田英雄・黒田恭史・岡本尚子・山崎まどか, 第16回日本音楽医療研究会学術集会)	2023.1
小澤 亘	著書(分担執筆)	『外国人の子どもへの学習支援』(齋藤ひろみ・浜田麻里・池上摩希子・築樋博子・横溝亮・櫻井千穂・内田千春・中川祐治・村澤慶昭・小澤亘・高橋登・今井むつみ, 金子書房)	2022.8
	研究発表等 (共同)	「外国籍の児童に対する音声教材を活用した日本語指導と今後の展望—実態把握に基づく提案を通して—」(日本LD学会第31回大会 自主シンポジウム)	2022.10
御旅屋 達	研究発表等 (単独)	「大阪府「定着支援事業」から見る高卒就職後の課題」(社会政策学会第144回大会)	2022.5
景井 充	論文(共著)	「地域企業家にとって“教養”とは何か(前編)—京都中小企業家同友会との連携授業「地域創造型事業活動論」活動報告(1)—」(景井充・玉村匡, 『立命館産業社会論集』第58巻第1号)181-196頁	2022.6
	論文(共著)	「地域企業家にとって“教養”とは何か(後編)—京都中小企業家同友会との連携授業「地域創造型事業活動論」活動報告(1)—」(景井充・玉村匡, 『立命館産業社会論集』第58巻第2号)149-164頁	2022.9
角田 将士	著書(分担執筆)	『中学校社会 指導スキル大全』(梅津正美編著, 明治図書)	2022.5
	著書(単著)	『NG 分析から導く 社会科授業の新公式』(明治図書)	2022.8
	著書(分担執筆)	『優れた社会科授業づくりハンドブック 型にはまらない多様な授業を創る』(全国社会科教育学会編, 明治図書)	2022.9
	著書(単著)	『学校で戦争を教えるということ—社会科教育は何をなすべきか—』(学事出版)	2023.2
	論文(単著)	「明日から活かせる!優れた社会科授業づくりの基礎基本:主体的・対話的で深い学びを実現する教材づくり 「『社会の見方・考え方の成長』を意識して」(明治図書『社会科教育』763号)14-17頁	2022.11
	研究発表等 (単独)	「生徒が立てた問いをどう評価していくのか?—高等学校地理歴史科における主体性の評価に向けて—」(社会科主体性評価研究会)	2022.5
	研究発表等 (単独)	「生徒たちが構想したアイデア(プラン)をどう評価していくのか?—高等学校地理歴史科における主体性の評価に向けて—」(社会科主体性評価研究会)	2022.7

角田 将士	研究発表等 (単独)	「日本史学習におけるパフォーマンス課題と学びの振り返り—高等学校地理歴史科における主体性の評価に向けて—」(社会科主体性評価研究会)	2022. 8
	その他 (単独講演)	「これからの社会系教科授業に求められるもの—『見方・考え方』の成長を意識した授業づくり—」(香川県高等学校教育研究会地理歴史・公民部会)	2022. 5
	その他 (単独講演)	「『資質・能力』時代の授業づくりに求められるもの—『見方・考え方の成長』とその見取り—」(令和4年度大分市立竹中小・中学校合同研修会)	2022. 8
柏木 智子	著書(分担執筆)	「子どもの貧困」実態調査と求められる支援」『最新教育動向2023』(明治図書)194-197頁	2022.12
	著書(分担執筆)	「コロナ禍における学習支援事業の意義とリスクマネジメントに向けた課題」『子ども・若者の居場所と貧困支援—学習支援・学校内カフェ・ユースワーク等での取組』(横井敏郎編著, 学事出版)77-92頁	2023. 3
	論文(単著)	「コロナ後の時代 問われる義務教育の姿—子どもの生と学びを保障するケアする学校づくり」(『日本義務教育学会紀要』5)46-56頁	2022. 4
	論文(単著)	「鈴木瞬著『子どもの放課後支援の社会学』学文社、2020年」(大塚学校経営研究会『学校経営研究』第47巻)113-120頁	2022. 4
	論文(単著)	「校内研究のテーマは、教科・領域に固有のものだけでいいのか」(教育開発研究所『教職研修』5月号)26-27頁	2022. 5
	論文(単著)	「ICTの活用による公正な教育活動の推進と学びの変容」(国立教育政策研究所国立教育政策研究所『公正で質の高い教育を目指したICT活用の促進条件に関する研究:2021年度政令指定都市調査の第一次分析』(「高度情報技術の進展に応じた教育革新に関する研究」中間報告書2))153-185頁	2022.10
	論文(単著)	「古田雄一著『現代アメリカ貧困地域の市民性教育改革—教室・学校・地域の連関の創造』東信堂、2021年」(『日本教育行政学会年報』No.48)240-243頁	2022.10
	論文(単著)	「子ども食堂が生み出すつながり」(杏林書院『保健の科学』64巻11月号)749-753頁	2022.11
	論文(単著)	「公正な学校へ」(教育開発研究所『教職研修』1月号)93-95頁	2023. 1
	論文(単著)	「ソーシャル・キャピタルの意義と学校教育の可能性」(とよなか都市創造研究所『とよなか都市創造』1)13-22頁	2023. 3
	論文(単著)	「荻野亮吾著『地域社会のつくり方—社会関係資本の醸成に向けた教育学からのアプローチ』勁草書房、2022年」(『学校改善研究紀要』5巻)163-165頁	2023. 3
	論文(単著)	「困難を抱える子どもの学びへの参加を促すICT活用—教員インタビューによる一試論」(『学校改善研究紀要』5巻)26-40頁	2023. 3
	論文(共著)	「教員の働き方改革に資する教員評価制度に関する一考察」(諏訪英広・湯藤定宗・眞弓(田中)真秀・高谷哲也・林孝・柏木智子, 学習開発学研究『学習開発学研究』第15号)87-96頁	2023. 3
	論文(単著)	「ICTの活用による公正な教育活動の推進—資源の分配に着目して」(日本学習社会学会『学習社会研究』第5号)186-199頁	2023. 3
	論文(単著)	「社会課題の発見と解決学習におけるICT活用」(国立教育政策研究所国立教育政策研究所『公正で質の高い教育を目指したICT活用の促進条件に関する研究:全国調査及び政令指定都市調査の分析』(令和元-4年度プロジェクト研究「高度情報技術の進展に応じた教育革新に関する研究」中間報告書3)159-191頁	2023. 3
	研究発表等 (共同)	「子どもの貧困対策としての学校と地域の連携推進—地域連携担当教職員の配置とマネジメントに関するアンケート調査から—」(諏訪英広・田中真秀, 日本教育経営学会第62回大会)	2022. 6

柏木 智子	研究発表等 (共同)	公正で質の高い教育を目指したICT活用の促進条件に関する研究～政令指定都市事例調査の分析結果報告:「ICT活用による公正な資源分配と子どもの学びの変容」(藤原文雄・露口健司・諏訪英広, 日本教育行政学会第57回大会)	2022.10
	その他	「子どもの貧困問題に立ち向かう」(『総合教育技術』夏号 小学館)	2022. 6
	その他 (単独講演)	「社会関係資本で子どもを守る—子どもの貧困とケアする学校—」(ソーシャル・キャピタル研究会)	2022. 4
	その他(単独)	「ケアする学校—学校におけるケアの在り方を考える—」(大阪府教育センター附属高等学校研修)	2022. 7
	その他 (単独講演)	「プラットフォームとしての学校—事務職員のかかわり」(兵庫県学校事務研究会)	2022. 7
	その他 (単独講演)	「生徒の学びを保障する「ケアする学校」づくり」(近畿中学校生徒指導研究協議会「京都大会」)	2022.11
	その他(単独)	「社会の分断を防ぐ、「ケアする学校」づくりをめざして」(研修)	2023. 1
	その他 (単独講演)	「社会の分断を防ぎ、公正な民主主義社会を形成するための学校づくり」(京都連合教職大学院学校経営研究会)	2023. 3
その他(共同)	「庄内さくら学園応援団説明会」	2023. 3	
加藤 潤三	論文(共著)	「海外移民に対する沖縄県民の受容態度とその規定因の検討」(加藤潤三・前村奈央佳, 『島嶼地域科学』第3号) 1-15頁	2022. 6
金澤 悠介	著書(単著)	「3-3 合理性をめぐる」 「3-11 合理的選択理論の応用例」 「8-4 転職における弱い紐帯の強さ」 『数理社会学事典』(数理社会学会数理社会学事典刊行委員会編, 丸善出版)74-77, 106-109, 310-313頁	2022. 8
	論文(単著)	「震災被災地における社会的孤立の構造: 岩手県大船渡市を事例とした計量的分析」(『理論と方法』37巻2号)285-301頁	2022. 9
金山 千広	著書(分担執筆)	『新高等保健体育』(渡邊正樹, ・友添秀則ほか61名, 大修館書店)	2022. 4
	著書(分担執筆)	『現代高等保健体育』(大修館書店)	2022. 4
	著書(分担執筆)	『現代高等保健体育指導ノート体育編』(大修館書店)	2022. 4
	著書(分担執筆)	『新高等保健体育指導ノート体育編』(大修館書店)	2022. 4
	著書(分担執筆)	『スポーツの近現代: その診断と批判』(有賀郁敏編, ナカニシヤ出版)	2023. 3
金子 史弥	著書(分担執筆)	『スポーツの近現代: その診断と批判』(有賀郁敏編, ナカニシヤ出版)	2023. 3
	論文(単著)	「東京2020大会のボランティア「問題」とは何だったのか?」(創文企画『現代スポーツ評論』46)67-80頁	2022. 5
川崎 聡大	著書(分担執筆)	『障害者・障害児心理学 第6章 限局性学習症/注意欠如・多動症の理解と支援』(ミネルヴァ書房)60-71頁	2022. 6
	著書(共著)	『これからの現場で役立つ臨床心理検査【事例編】 第3章思春期の問題行動』(荻布優子・川崎聡大)33-50頁	2023. 1
	著書(分担執筆)	『言語聴覚士のための乳幼児健診入門ガイド』(一般社団法人言語聴覚士協会)22-26, 40-46頁	2023. 1
	著書(単著)	「学びに困難を抱えた子どもたち: 発達障害と向き合う—特集 学校 息苦しさからの脱却」(岩波書店『世界』四月号)207-215頁	2023. 3

川崎 聡大	論文(共著)	「COVID-19感染拡大下における ASD 傾向と精神的健康の関連：予防行動、感染危機意識の観点から— Association between ASD tendencies and mental stress under the spread of COVID-19 infection : From the perspective of infection prevention behaviors and crisis awareness of infection」(菅井美香・川崎聡大・荻布優子・川田拓, ストレスマネジメント研究編集委員会編『ストレスマネジメント研究 = Stress management research』18巻2号)65-73頁	2022
	論文(共著)	「5歳児の非認知的能力と言語発達の実態把握—実行機能と向社会行動、言語発達の関連について—」(『発達支援学研究』3巻1号)24-35頁	2022.11
	論文(単著)	「【言語障害のリハビリテーション】読み書き障害」(株)医学書院『総合リハビリテーション』Vol.50 No.11)1339-1350頁	2022.11
	論文(共著)	「小学校現場で集団実施可能なオンラインによる実行機能評価の試み」(川田拓・川崎聡大, 一般社団法人日本教育工学会『日本教育工学会研究報告集』2022巻4号)16-19頁	2022.11
	論文(共著)	「簡易脳波計による課題遂行時の脳波の変化と自律神経活動の関連の検討」(川田 拓・川崎聡大・安藤明伸, 一般社団法人日本教育工学会『日本教育工学会論文誌 advpub』)	2022.12
	論文(共著)	「本邦における幼児吃音への対応と自然治癒要因についての研究動向」(角田航平・川崎聡大, 71 (1))	2022.12
	論文(共著)	「視覚と触覚を用いた多感覚学習における Rey-Osterrieth 複雑図形検査の視覚性記憶促進作用について」(認知神経科学会『認知神経科学』24巻3・4号)87-91頁	2023. 3
	研究発表等 (共同)	「児童期の漢字書字正確性と学力、学習意欲との関係性 標準漢字読み書き習得尺度 (SAKLA)を用いた検討」(川崎聡大・荻布優子・奥村智人, (一社)日本小児精神神経学会日本小児精神神経学会プログラム・抄録集 127回)61頁	2022. 6
	研究発表等 (共同)	「小学生における正しく整った漢字書字と学力の関係に関する検討」(荻布優子・川崎聡大・奥村智人, (一社)日本小児精神神経学会日本小児精神神経学会プログラム・抄録集 127回)61頁	2022. 6
	研究発表等 (共同)	“Can Micro-Cone Stimulation Of The External Ear Canal Modulate Sympathetic Activity And Pfa Function During Vot Task?” (A. KAWASAKI, M. NAKAGAWA, ISAN2022)	2022. 9
	研究発表等 (共同)	「書字の読みやすさ (legibility)の客観的評価法作成の試み (第2報)目と手の協応との関連」(奥村智人・三浦朋子・水谷翠・富永絵理子・福井美保・荻布優子・川崎聡大・若宮英司, (一社)日本小児精神神経学会『小児の精神と神経』第62巻3号)267-268頁	2022.10
	研究発表等 (その他)	関連団体企画シンポジウム「根拠に基づいた発達支援」(役割:企画・司会・話題提供・指定討論, 第34回日本発達心理学会)	2023. 3
	その他(講師)	米沢市公開研修会「合理的配慮・インクルーシブ教育に学ぶ」(米沢市社会福祉協議会)	2022. 6
	その他 (その他)	「発達障害といじめ」について」(東北大学教育学研究科心理支援センター・発達学習心理相談室共催, オーガナイザー)	2023. 1
	その他(講師)	「高知県発達障害早期支援エキスパート事業 研修会」(一般社団法人高知県言語聴覚士会)	2023. 3
権 学俊	著書(単著)	『朝鮮人特攻隊員の表象—歴史と記憶のはざま—』(法政大学出版局)	2022.11
	著書(分担執筆)	「韓国における満州国の残映と植民地主義——「国民」体力時代と身体規律」(有賀郁敏編『スポーツの近現代：その診断と批判』, ナカニシヤ出版)	2023. 3



権 学俊	論文(単著)	「植民地朝鮮における飛行機表象と朝鮮総督府の航空政策(下)」(『立命館産業社会論集』第58巻第1号)123-139頁	2022.6
黒田 学	論文(単著)	書評「『敵対から協力へーベトナム戦争と枯れ葉剤被害ー』(レ・ケ・ソン、チャールズ・R・ベイリー著、北村元、野崎明、生田目学文、石野莞司、桑原真弓訳、梨の木舎刊)(枯れ葉剤による被害と環境汚染の状況、被害者支援の取り組みを明らかに——国際平和の構築に向けた協力のあり方を改めて考えさせられる書)」(『武久出版図書新聞』第3575号)	2023.1
	その他 (単独講演)	「ベトナムと障害者 —平和・包摂・結束の視点から」(立命館土曜講座(第3355回)ダイバーシティ再考——人文・社会科学から『多様性』を問い直す)	2022.4
	その他 (単独講演)	「人間発達と社会の現状—平和と人間発達」(人間発達研究所第37回研究集会「豊かな人間発達の実現に向けて—今、実践現場に求められているもの」)	2022.7
	その他 (単独講演)	「次世代につなげよう—地域に根ざした取り組みを」(きょうされん第45回全国大会 in 東北・いわて、分科会「地域・人づくり」)	2022.10
その他 (単独講師)	「海外の福祉を学ぶこと」(佐賀県教育委員会「未来のスペシャリスト海外研修」)	2022.10	
小泉 秀昭	論文(単著)	「広告の社会的機能～経済・社会・文化・経営からの考察～」(『立命館産業社会論集』第58巻第1号)3-20頁	2022.6
斎藤 真緒	論文(単著)	「ヤングケアラーの現状と自治体の支援策」(地方自治研究機構編、ぎょうせい『自治体法務研究』No.70)33-37頁	2022.5
	論文(単著)	「あらためて、ヤングケアラー『ブーム』を問う—問題の射程と次元の再考のために」(青土社『現代思想』vol.50-14)40-50頁	2022.11
	論文(単著)	「家族介護への支援の課題—男性介護者とヤングケアラーを手がかりとして」(部落問題研究所『人権と部落問題』通巻965号)	2022.11
	論文(分担執筆)	「ヤングケアラーをめぐる諸問題」(労働教育センター『女も男も』No.138)12-17頁	2022.12
	論文(監修)	「子ども・若者ケアラーについて知っていますか?—18歳を過ぎた若者ケアラーからのメッセージ—」	2023.3
坂田 謙司	論文(単著)	「社会に遍在する声とジェンダー なぜ自動音声は「女性声」なのか、支援と女性の声の関係」(『立命館産業社会論集』第58巻第4号)55-68頁	2023.3
崎山 治男	論文(単著)	“Mobilization through Emotional Labor: Emotional Labor as a Tool of Competition” (『立命館産業社会論集』第58巻第4号)19-31頁	2023.3
桜井 啓太	著書(分担執筆)	『子ども白書2022』(日本子どもを守る会編、かもがわ出版)	2022.7
	論文(単著)	「学生に賃金(生活保護)を」(青土社『現代思想』vol.50-4)80-89頁	2022.4
	論文(単著)	「日本の貧困対策における要件化:生活保護制度を中心に」(明石書店『貧困研究』Vol.28)14-20頁	2022.6
	論文(単著)	「貧しくもなく労働もしないヤングケアラー:ケアの再配分かケアラーの承認か?」(青土社『現代思想』vol.50-14)138-145頁	2022.11
	研究発表等 (単独)	「生活保護と非正規・委託問題」(福祉社会学会 第20回シンポジウム)	2022.7
	研究発表等 (単独)	「貧者の統治の現代的諸相とソーシャルワーク」(唯物論研究協会第45回研究大会)	2022.11
櫻井 純理	著書(分担執筆)	「働くことを通じた自立支援 その意味」(上林陽治・篠田徹・櫻井純理・正木浩司・原田晃樹・野口鉄平・斎藤徹史、日本評論社『格差に挑む自治体労働政策』)	2022.10

櫻井 純理	著書(分担執筆)	「自治体就労支援政策の意義と課題—豊中市の事例」(上林陽治・篠田徹・櫻井純理・正木浩司・原田晃樹・野口鉄平・斎藤徹史, 日本評論社『格差に挑む自治体労働政策』)	2022.10
鎮目 真人	研究発表等 (単独)	“COVID-19, Inequalities and Policy Responses: The Experience in Japan” (The 2022 Social Welfare Association of Taiwan Annual Meeting and Conference)	2022. 5
	研究発表等 (単独)	“The Japanese welfare state and COVID-19: A corporate-centered conservative welfare regime and path-dependent responses” (The 18th Annual Conference of East Asian Social Policy Research Network (Transformation of Post-COVID Welfare States in East Asia: Beyond Productivist Welfare Capitalism?))	2022. 6
住家 正芳	論文(単著)	「厦門の魯迅と「尊孔」校長林文慶(下)」(『立命館産業社会論集』第58巻第1号)197-208頁	2022. 6
住田 翔子	論文(単著)	「廃墟から遺産へ—閉山後の軍艦島に対するまなごしの一考察」(立命館大学国際言語文化研究所『立命館言語文化研究』34巻2号)225-238頁	2022.10
	論文(単著)	「バルクールと創造する都市—《Jump London》(2003)の制作背景に注目して—」(立命館大学人文科学研究所『立命館大学人文科学研究所紀要』135号)81-105頁	2023. 3
孫 片田 晶	論文(単著)	「日立闘争と反差別の民族的主体—民族概念の歴史を振り返り多文化共生の課題を考察する(上)」(『立命館産業社会論集』第58巻第3号)69-84頁	2022.12
高橋 顕也	論文(単著)	「社会の時間と社会学の時間」(『社会の時間—新たな「時間の社会学」の構築へ向けて—』)	2022. 6
	論文(単著)	「社会学的時間概念の公理論化：真木悠介「時間の4類型」を適用事例として」(『社会の時間—新たな「時間の社会学」の構築へ向けて—』)	2022. 6
	論文(単著)	「加速という近代の宿命と社会批判の新たな地平—読者は本書のそこかしこから、自分たちの社会生活に潜む社会理論的、時間論的な洞察を得ることができる」(『図書新聞』3567号)	2022.11
竹内 謙彰	論文(単著)	「成人期における主体的な学び態度—年齢による変化ならびに人生満足度との関連—」(『立命館産業社会論集』第58巻第3号)1-17頁	2022.12
	研究発表等 (共同)	「自閉症スペクトラム児の多様性と自主性を尊重した療育プログラムの開発(24)—小学生中・高学年：関わりの促進を重視した療育プログラムの検討—」(浅野史奈・陣内里紗・松村奈津・荒木美知子・松元佑・荒木穂積・竹内謙彰・矢藤優子, 日本発達心理学会第34回大会)	2023. 3
	研究発表等 (共同)	「自閉症スペクトラム児の多様性と自主性を尊重した療育プログラムの開発(25)—文脈を踏まえた視線の動きに注目した検討—」(蓼沼力・吉田崇裕・小林藍・近江涼音・松元佑・荒木穂積・竹内謙彰・矢藤優子, 日本発達心理学会第34回大会)	2023. 3
武岡 暢	論文(単著)	「[調査実習の事例報告]受講生の日記を分析する試み—立命館大学産業社会学部の社会調査実習」(『社会と調査』29号)81-85頁	2022. 9
	論文(単著)	「R.K. マートンによるアスピレーション調査—コロンビア大学所蔵アーカイブ資料からの素描」(『立命館産業社会論集』第58巻第2号)137-147頁	2022. 9
	論文(単著)	「[福祉の敗北]とスティグマ」(『空間・社会・地理思想』第26号)117頁	2023. 3

武田 淳	研究発表等 (単独)	“Japanese-Korean Transnational Marriage: Cases of Japanese Marriage Migrants in South Korea” (Anthropology of Japan in Japan (AJJ) Annual Meeting)	2022.12
竹濱 朝美	著書(共著)	‘Local Energy Governance, Opportunities and Challenges for Renewable and Decentralised Energy in France and Japan’, edited by Magali Dreyfus and Aki Suwa, Routledge. Chapter 12, “Analysis of supply-demand balances in western Japan grids in 2030, Integrating large-scale photovoltaic and wind energies: challenges in cross-regional interconnections”, Asami Takehama and Manabu Utagawa. (pp.212-244) of 274	2022. 6
	論文(共著)	「2030年、石炭火力廃止の場合の西日本の電力需給、再エネ電力60%目標の可能性」(竹濱朝美・歌川学, 『日本風力エネルギー学会第44回 風力エネルギー利用シンポジウム (発表原稿集)』44)266-269頁	2022.12
	論文(共著)	「2030年に石炭火力を廃止する場合、西日本の電力需給への影響、再エネ電力60%の可能性検討」(竹濱朝美・歌川学, 『エネルギー資源学会第39回 エネルギーシステム・経済・環境コンファレンス講演論文集』39)193-198頁	2023. 1
	研究発表等 (共同)	「自然変動電源による2030年の西日本の電力需給、原発ゼロの場合のデマンドレスポンス必要量」(竹濱朝美・歌川学, 日本環境学会 第48回研究発表会)	2022. 7
	研究発表等 (共同)	“Feasibility of 60% Renewable Electricity Target and Electricity Supply-Demand Balance of Western Japan Grids in 2030 Under the Phasing-Out of Coal-Fired Power Plants” (Asami Takehama, Manabu Utagawa, Grand Renewable Energy 2022 International Conference (GRE2022))	2022.12
田村 和宏	論文(単著)	「障害のある人たちの暮らしの場を考える」(社会福祉法人大阪福祉事業財団『福祉のひろば (2022年12月号)』273 (638))35-39頁	2022.12
丹波 史紀	著書(単著)	『原子力災害からの複線型復興—被災者の生活再建への道』(明石書店)	2023. 3
	論文(単著)	「国民生活の困難に社会保障は応えているか」(全国労働組合総連合『月刊全労連』通巻302号 (2022年4月号)) 1-11頁	2022. 4
	論文(共著)	「東京電力福島第一原子力発電所事故にともなう長期避難の実態—2021年第3回双葉郡住民実態調査—」(丹波史紀・安本真也・静間健人・関谷直也・小山良太・服部正幸, 東京大学大学院情報学環『東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究・調査研究編』39)169-237頁	2023. 3
	論文(単著)	「原子力災害から12年、被災者の生活再建の現状」(建築政策研究所『建築政策』第208号)20-25頁	2023. 3
筒井 淳也	著書(分担執筆)	『ジェンダーの発達科学 (発達科学ハンドブック)』(日本発達心理学会編, 高橋恵子・大野祥子・渡邊寛 (責任編集), 新曜社)第19章「ジェンダーと労働・経済格差」270-281頁	2022. 5
	著書(分担執筆)	『夫婦の関係はどうかわっていくのか: パネルデータによる分析』(ミネルヴァ書房)第3章「年齢を重ねると夫婦は満足を深めるのか」39-59頁	2022.12
	著書(単著)	『数字のセンスを磨く: データの読み方・活かし方』(光文社新書)	2023. 2
	論文(単著)	「家族と新型コロナウイルス感染拡大におけるジェンダー問題」(『学術の動向』第27巻第5号)24-28頁	2022. 5
	論文(単著)	書評“Educational Assortative Mating in Japan: Insights into Social Change and Stratification, Fumiya Uchikoshi, James M. Raymo” (『理論と方法』37巻1号)150-153頁	2022. 9

筒井 淳也	論文(単著)	「新型コロナ・パンデミックとジェンダー・職業格差」(『学術の動向』第27巻第9号)47-49頁	2022. 9
	論文(単著)	「育児休業のジェンダー・バランスを達成するために何が必要か」(『OMNI-MANAGEMENT』2022年11月号) 4-11頁	2022.11
	論文(単著)	「超高齢社会を乗り切るべく「生涯観」の刷新を」(『中央公論』第137巻第4号)62-69頁	2023. 3
	研究発表等 (共同)	「私たちはどんな「生涯観」を持っているのか：生涯観に関するウェブ調査の結果から」(筒井淳也・田中慶子・LI Wenwen, 学術変革領域 A「生涯学の創出」2022年度第2回領域会議)	2022. 3
	その他 (単独講師)	「これからの働き方について：家族のみらいのかたち」(高槻市 女性が社会参画するためのエンパワーメント講座)	2022. 6
	その他	「令和4年度 男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」(内閣府男女共同参画室)	2022. 6
	その他 (単独講演)	「社会科学の計量分析を問う：『社会学「非サイエンス」的な知の居場所』を通じて」(公開研究会「社会科学の計量分析再考：“説明”の評価と解釈に関する数理的開発と検証」)	2022. 9
	その他 (単独講師)	「社会を知るためには：わからない世界との付き合い方」(NHK 文化センター講座)	2022.10
	その他 (単独講師)	「家族と仕事の視点からあたらしい社会を考える」(もりぐち e セミナー(守口市))	2022.10
その他 (単独講師)	「男女ともに活躍できるこれからの働き方」(堺市 男女共同参画リーダー養成講座)	2022.11	
その他 (単独講演)	「働き方と家族の未来図：データから読み解く仕事・家族・ジェンダー」(こうち男女共同参画センター「ソーレ」講演)	2022.12	
津止 正敏	著書(単著)	「男性の介護：その実態と支援の課題」(『日本認知症ケア学会誌』第21巻第3号)425-433頁	2022.10
	その他(共同)	「『賢人論』介護はつらいことばかりじゃない 「深い人生」の扉を開いてくれる」(みんなの介護)	2022. 8
富永 京子	著書(分担執筆)	『民主主義に未来はあるのか?』(山崎望編, 法政大学出版社)	2022. 8
	論文(単著)	“Who Meets the Perfect Standard of a ‘Real’ Feminist?: Writings by Feminist Activists in Japan”	2022. 6
	論文(単著)	“The Process of Forming Activist Identity under Media Coverage: the Perfect Standard, Right Type of Activism, and Gendered Experience”	2022. 6
	論文(単著)	「『書くこと』による読者共同体の生成メカニズム——若者雑誌『ビックリハウス』の投稿を事例として」(『ソシオロジ』67巻1号)99-115頁	2022. 8
	研究発表等 (単独)	“The Process of Forming Activist Identity under Media Coverage: the Perfect Standard, Right Type of Activism, and Gendered Experience” (Mobilization Conference)	2022. 6
	研究発表等 (単独)	“Who Meets the Perfect Standard of a ‘Real’ Feminist?: Writings by Feminist Activists in Japan” (AFPP Conference 2022)	2022. 6
	研究発表等 (単独)	日本政治学会パネル「大衆デモと民主主義の行方」コメンテーター (2022年度日本政治学会総会・研究大会)	2022.10
	研究発表等 (単独)	数理社会学会シンポジウム「不平等と政治」パネリスト (数理社会学会第74回大会)	2023. 3

仲井 邦佳	論文(単著)	「単位制度と学年暦 一国際的視点からの検証一」(IDE 大学協会 『IDE 現代の高等教育』2022年(11月号))19-22頁	2022.11
	研究発表等 (単独)	“Reflexiones sobre las estructuras de las oraciones compuestas del español: coordinadas, subordinadas y bipolares” (日本語とスペイン語の対照文法公開シンポジウム)	2023. 2
中井 美樹	論文(単著)	「新型コロナパンデミックが労働市場に与えた影響にみられるリスクの不平等: 職業の特徴「テレワークビリティ」「身体的近接性」に注目した予備的分析」(『立命館産業社会論集』第58巻第3号)35-49頁	2022.12
	研究発表等 (共同)	“Measuring subjective well-being over time: Findings from a hidden Markov model with covariates” (Pennoni, Fulvia and Nakai, Miki, ECDA 2022)	2022. 9
長澤 克重	論文(単著)	「企業消費者間電子商取引に関する日本の公的統計の課題」(『立命館産業社会論集』第58巻第1号)59-84頁	2022. 6
永島 昂	論文(共著)	「ポスト株主資本主義と企業経営の探究」(夏目啓二・森原康仁・永島昂・芳澤輝泰, 文理閣 『比較経営研究』第46号)91-99頁	2022. 6
中西 純司	著書(分担執筆)	「現代の「スポーツ経営学」考」(『スポーツの近現代: その診断と批判』, ナカニシヤ出版)385-422頁	2023. 3
	論文(共著)	「プロスポーツ成熟市場におけるスポーツ観戦者の特性把握: アルビレックス新潟の事例を手掛かりとして」(山本悦史・本間崇教・中西純司, 日本スポーツ産業学会 『スポーツ産業学研究』32巻3号)315-332頁	2022. 7
	論文(共著)	「持続可能な総合型地域スポーツクラブづくりの探究—2つのクラブの事例研究を中心に—」(田代祐子・中西純司, 『立命館産業社会論集』第58巻第4号)33-54頁	2023. 3
	研究発表等 (単独)	基調講演「近代スポーツの誕生と発展から学べること」(シンポジウム「教養としてのスポーツをどう捉え、教えるか」)	2023. 2
中西 典子	著書(その他)	『2022京都自治研集会<第1分科会>』(自治労京都府本部/京都地方自治総合研究所2022京都自治研集会<報告書>「公共サービスが創る新しい絆パンデミックを乗り越えて」)	2022. 8
	その他(単独)	「2022 京都自治研集会 <第1分科会>助言者」(2022 京都自治研集会)	2022. 8
中西 仁	論文(単著)	「神興興き集團の歴史民俗学研究—京都の祭礼を事例として—」(博士学位請求論文)	2023. 3
	論文(単著)	「近代京都の都市周縁と祭礼—神興は誰が昇くのか—」(『京都部落問題研究資料センター二〇二二年度差別の歴史を考える連続講座講演録』)	2023. 3
	研究発表等 (単独)	「「考えること」に焦点を当てた社会科授業の勧め」(立命館大学実践教育学会第6回研究大会)	2022.10
	研究発表等 (単独)	「文化価値創造するために身近な文化資産とどう向き合うか」(第19回和文化教育全国大会)	2022.11
永野 聡	著書(分担執筆)	『皓雪冽白 ~漉き込む十日町の記憶~』(Doobu (代表: 永野聡) + 立命館大学産業社会学部永野聡ゼミ, 現代企画室越後妻有大地の芸術祭2022公式ガイドブック)75頁	2022. 4
	論文(共著)	「地元参加型アートの継続的展開による地域らしさの創出に関する研究」(山近資成・永野聡, 環境芸術学会 『環境芸術』28巻)	2022. 5

永野 聡	論文(共著)	「陶磁器産業地域の特性を活かしたまちづくり施策の実態に関する研究～自治体へのアンケート調査を通じて～」(永野聡・岡本肇・臼井直之, 公益社団法人日本都市計画学会『都市計画報告集』21巻3号)271-277頁	2022.12
	研究発表等 (単独)	「超高齢期のライフデザインを聞き出す対話型コンテンツの開発」(第64回日本老年社会学会大会)	2022. 7
	研究発表等 (単独)	「地域資源を活用した滞在型ウェルネスツーリズムプログラムのモデル開発に関する社会実験 三重県志摩市の多島海・英虞湾を基点として」(2022年度日本建築学会大会 [北海道])	2022. 9
	その他(共同)	「皓雪冽白(こうせつれっぱく)～漣(す)き込む十日町の記憶～」(新潟県十日町市)	2022. 4 - 11
永橋 爲介	著書(共著)	『第三期西成特区構想有識者提言』(寺川政司・水内俊雄・白波瀬達也・垣田裕介・永橋爲介・福原宏幸・村上靖彦, 大阪役所)	2022. 8
	論文(単著)	「公園・広場の利用・管理・運営や居場所づくりのこの3年の成果と課題ならびに今後の展望～小さいことから始めて協働の輪を広げ大きなアクションへと移行する漸進的プロセス～」(『大阪役所第三期西成特区構想有識者提言』)	2022. 8
	その他(単独)	「地域の小水力発電をよみがえらせる」(立命館大学研究部 立命館大学研究活動報『RADIANT』Vol.20) 4-5頁	2023. 3
中村 正	著書(その他)	『マスキュリニティーズー男性性の社会科学ー』(伊藤公雄訳/中村正・多賀太らと共同訳, 新曜社)	2022. 5
	著書(分担執筆)	『災厄を生きる一物語と土地の力』第8章「プロジェクトにおける『家族応援』の意味と『お父さん応援セミナー』の取り組みー日常生活のコミュニケーションにおける男性性ジェンダー作用」(国書刊行会)	2022. 7
	著書(その他)	『どうして男はこうなんだろうか会議』第3章「男性性と暴力ーコミュニケーションに潜む加害と被害の両面から考えるー」(澁谷知美・清田隆之編/西井開・中村正・平山亮・前川直哉・武田砂鉄, 筑摩書房)	2022. 8
	論文(単著)	「臨床社会学の方法 (37) 男性学のすすめーコンネル『マスキュリニティーズー男性性の社会科学』刊行の意義」(対人援助学会『対人援助学マガジン』Vol.13 No.1)20-28頁	2022. 6
	論文(単著)	「加害行為研究の視界ー加害性、暴力性、暴力の文化、マイクロアグレッションー」(青土社『現代思想』vol.50-9)33-46頁	2022. 7
	論文(単著)	「臨床社会学の方法 (38) 暴力・性暴力の連続体」(対人援助学会『対人援助学マガジン』Vol.13 No.2)21-29頁	2022. 9
	論文(単著)	「臨床社会学の方法 (39) 脱暴力支援のグループワークとケースワーク」(対人援助学会『対人援助学マガジン』Vol.13 No.3)22-31頁	2022.12
	論文(単著)	「加害者の変容可能性をひきだすための対話」(精神看護出版『精神科看護』59巻3号)23-29頁	2023. 2
	根津 朝彦	著書(分担執筆)	『東アジアと朝鮮戦争七〇年ーメディア・思想・日本』(「レッドパーズと朝鮮戦争をめぐる報道界・記者研究の断章」を担当)(明石書店)198-265頁
研究発表等 (単独)		「報道職への進路支援とジャーナリズム文化」(日本メディア学会ジャーナリズム研究・教育部会「ジャーナリズム・リテラシー向上のためのティーチング・ティップス連続研究会 第3回 大学と報道職の近接」(Zoom開催))	2022. 7
その他 (単独講演)		「日本でのジャーナリズム教育と報道事情」(ジュアナ会・日本学術振興会ナイロビ研究連絡センター共催)	2022. 9

盧 載玉	論文(共著)	「朝鮮時代後期の冊架図の成立と正祖の絵画観(その二)」(『立命館産業社会論集』第58巻第1号)105-121頁	2022.6
野原 博人	共著(共著)	『理論と実践をつなぐ理科教育学研究の展開』(東洋館出版社)	2022.7
	共著(単著)	「理科授業で高まるエージェンシー～エージェンシー育成のための学習環境のデザイン～」(『初等理科教育』12/1月号55(5))4-7頁	2022.12
	研究発表等(単独)	「拡張的学習」(日本理科教育学会第72回全国大会)	2022.9
	研究発表等(共同)	「科学概念構築におけるメタ認知的知識の内実とその分析—微視的な視点で現象を捉える学習を通して—」(齋藤照哉(横浜国立大学教職大学院)・野原博人(立命館大学), 日本理科教育学会第72回全国大会)	2022.9
	研究発表等(共同)	「『拡張的学習による理科授業デザイン』の理論と実践—共同エージェンシーを基軸としたエージェンシーの育成—」(有泉翔太(川崎市立下沼部小学校)・野原博人(立命館大学), 日本理科教育学会第72回全国大会)	2022.9
	研究発表等(共同)	「自己の学びを調整するためのリフレクションシートによる振り返りと見直し—個別最適な学びと協働的な学びを促進する理科授業デザイン—」(宮野利隆(川崎市立東柿生小学校)・野原博人(立命館大学), 日本理科教育学会第72回全国大会)	2022.9
	研究発表等(共同)	「共同エージェンシーを育む教師、子どもの関係性—子どもが目的、責任をもって共同する学習環境のデザイン—」(粟生義紀(能美市立粟生小学校)・野原博人(立命館大学), 2022年度日本理科教育学会近畿支部大会)	2022.11
	研究発表等(共同)	「『メタ認知』を促進する教授・学習論を基軸とした理科授業デザイン—「メタ認知的問いかけ」を活用した相互アセスメント—」(近藤聖也(大阪市立本田小学校)・野原博人(立命館大学), 2022年度日本理科教育学会近畿支部大会)	2022.11
	研究発表等(共同)	「メタ認知的知識と理科の見方・考え方との関係性の考察—微視的な視点で現象を捉える学習を通して—」(齋藤照哉(横浜国立大学教職大学院教育学研究科)・野原博人(立命館大学), 日本理科教育学会第61回関東支部大会)	2022.12
	研究発表等(共同)	「拡張的学習の循環における科学概念構築—共同体における多元的思考の促進—」(有泉翔太(川崎市立下沼部小学校), 野原博人(立命館大学), 日本理科教育学会 第61回関東支部大会)	2022.12
研究発表等(共同)	「リフレクションシートによる振り返りと見直しによる自己の学びの調整—個別最適な学びと協働的な学びを促進する理科授業デザイン—」(宮野利隆(川崎市立東柿生小学校), 野原博人(立命館大学), 日本理科教育学会 第61回関東支部大会)	2022.12	
長谷川千春	著書(共著)	「貧困問題とオバマケア」(河音琢郎・豊福裕二・野口義直・平野健 編著『21世紀アメリカ資本主義:グローバル蓄積構造の変容』大槻書店, 第5篇 労働・貧困・社会運動 第15章)	2023.3
	論文(単著)	「アメリカ(第6編 諸外国の医療保険制度と年金制度、第2章 医療保険制度 5)」(一般財団法人 厚生労働統計協会『保険と年金の動向2022/2023(厚生)の指標 増刊』第69巻第14号)266-271頁	2022.11
春木 憂	研究発表等(単独)	「令和の日本型学校教育の具体化—教科において具体化を図る—【国語科編】」(立命館大学実践教育学会第6回研究大会)	2022.10
樋口 耕一	論文(単著)	「官能評価に使える統計解析ツール KH Coder 編」(『日本官能評価学会誌』第26巻第1号)26-29頁	2022.4

	研究発表等 (単独)	「言語データを対象とした KH Coder の活用法」(英語コーパス学会第48回大会)	2022.10
日暮 雅夫	著書(共編著者)	『批判的社会理論の今日的可能性』(永井彰・日暮雅夫・舟場保之, 晃洋書房)	2022. 6
	著書(共著)	『『啓蒙の弁証法』を読む』(岩波書店)	2023. 1
	著書(分担執筆)	『啓蒙思想の百科事典』(丸善出版株式会社)	2023. 2
	著書(共著)	『視覚と間文化性』(法政大学出版局)	2023. 3
	研究発表等 (単独)	「アメリカ批判理論の展開——『啓蒙の弁証法』と新自由主義批判」(日本社会学会史学会第61回大会)	2022. 6
	研究発表等 (単独)	「アクセル・ホネット『社会主義の理念』の視点からの社会主義の再考」(経済理論学会第71回大会第12分科会)	2022.10
	研究発表等 (単独)	「ホネットにおける「社会的自由」と新自由主義批判——『自由の権利』と『社会主義の理念』を中心に——」(社会思想史学会第47回大会セッション「アクセル・ホネットの社会思想の展開——『批判的社会理論の今日的可能性』を読む——」)	2022.10
研究発表等 (単独)	「瓦礫の中の市民社会——ハーバーマスと日本の市民社会論」(社会文化学会第25回全国大会)	2022.12	
その他 (単独講演)	「承認をめぐる闘争の発展——ホネット社会理論の展開」(第10回大阪哲学ゼミナール)	2022. 8	
日高 勝之	著書(単著)	<i>Japanese Media and the Intelligentsia after Fukushima: Disaster Culture</i> (Routledge)	2022. 5
	著書(編者 編著者)	『1970年代文化論』(青弓社)	2022. 8
	著書(共著)	『昭和50年代論:「戦後の終わり」と「終わらない戦後」の交錯』(みずき書林)	2022. 4
	論文(単著)	「(書評)安斎育郎著『私の反原発人生と「福島プロジェクト」の足跡』」(『立命館アジア・日本研究学術年報』第3号)	2022.10
	論文(単著)	「放送研究のこれから」(NHK 放送文化研究所『放送メディア研究』第15号) 163頁	2022.10
	論文(単著)	「コモンセンスと「令和日本のデザイン」——先崎彰容氏の問いとその行方を考える」(『日本コミュニケーション研究』51巻)59-69頁	2023. 1
	論文(共著)	「危機とコミュニケーション」(先崎彰容・師岡淳也・福本明子・日高勝之, 『日本コミュニケーション研究』51巻)21-38頁	2023. 1
	研究発表等 (単独)	「コロナの時代における他者への共感～東京オリンピックとアスリート～」(日本コミュニケーション学会関西支部秋季大会)	2022.11
	研究発表等 (単独)	「復興を問い続ける～終わりなき震災報道～」(日本大学新聞学研究所シンポジウム)	2023. 2
	研究発表等 (単独)	「E.H. カー『歴史とは何か』を読む～コミュニケーション学を考えるために～」(日本コミュニケーション学会関西支部大会)	2023. 3
その他(監修)	(テレビ番組監修)日本テレビ『ザ! 世界仰天ニュース』(特集『日本赤軍』による「ダッカ日航機ハイジャック事件」)	2022. 9	
平井 秀幸	論文(単著)	「「ハーム」のない刑務所は可能か? : 「拘禁の痛み」を再考する」(『臨床心理学』増刊14号)90-99頁	2022. 8
	研究発表等 (共同)	「刑務所の「中」で、「外」の生活を語る——「女子依存症回復支援モデル事業」のフィールドワーク④」(加藤倫子・平井秀幸・大野光子・須永将史, 第95回日本社会学会)	2022.11



福間 良明	著書(単著)	『司馬遼太郎の時代——歴史と大衆教養主義』(中央公論新社(中公新書))	2022.10
	論文(単著)	「西岡竹次郎と『理念』『実利』の錯綜——格差と弁論のメディア文化史」(京都大学大学院教育学研究科メディア文化論研究室『京都メディア史年報』8号)43-72頁	2022. 4
	論文(単著)	書評「大尾侑子著『地下出版のメディア史』」(『日本経済新聞』)	2022. 5
	論文(単著)	「歴史小説のなかの『戦争と社会』——司馬遼太郎とネガとしての『明るさ』」(岩波書店『思想』2022年5月号 no.1177)74-90頁	2022. 5
	論文(単著)	「勤労青年の教養文化」(筑摩書房(ちくま新書)筒井清忠編『昭和史講義【戦後文化篇】』(上))311-328頁	2022. 7
	論文(単著)	「『司馬史観』への共感とポスト『明治百年』:『教養主義の没落』後の中年教養文化」(青弓社(青弓社ライブラリー)日高勝之編『1970年代文化論』)83-112頁	2022. 8
	論文(単著)	書評「佐藤文香著『女性兵士という難問』」(共同通信配信)	2022. 9
	論文(単著)	「전후 일본과 전쟁 체험 논의 변화」(「戦後日本と戦争体験論の変容」)(翰林大学日本研究所『한림 일본학 연구 총서 II 06 (翰林大学日本研究叢書 II 06)The Impact of Post-Imperial Japan's Culture Ppower on East Asia』)25-51頁	2022.12
	論文(単著)	「戦争とメディア・文化」(日本学術会議『学術の動向』第27巻第12号)10-15頁	2022.12
	論文(単著)	書評「井川充雄著『帝国をつなぐ〈声〉』」(日本社会学会『社会学評論』第73巻第3号)309-310頁	2022.12
	論文(単著)	「昭和の日本主義」(筑摩書房(ちくま新書)山口輝臣・福家崇洋編『思想史講義【戦前昭和篇】』)165-179頁	2022.12
	研究発表等 (単独)	「司馬遼太郎の時代——「歴史という教養」と「二流」の昭和史」(リベラル・モダニズム研究会)	2022. 7
	研究発表等 (共同)	「韓国併合記念日に語る、日韓関係の記憶と忘却」(福間良明・趙相宇,『忘却された日韓関係』刊行記念対談)	2022. 8
	研究発表等 (単独)	「東アジアの現代史と「カクテル・パーティーの破綻」への問い——書評 浅野豊美編『和解学の試み:記憶・感情・価値』明石書店、2021年—」(和解学叢書書評会)	2023. 3
	研究発表等 (単独)	「特攻の町・知覧」(利他学会議 vol.3 分科会1 土地×記憶)	2023. 3
その他 (単独講演)	「学徒出陣50年から30年 戦争の記憶の継承を考える」(戦争と一橋生)	2022.11	
藤嶋 陽子	著書(分担執筆)	『クリティカル・ワード ポピュラー音楽』(永富真梨・忠聡太・日高良祐 編, フィルムアート社)	2023. 3
HOSACK IAN	論文(単著)	“Addressing Citizenship Teaching Objectives through English Language Classes in Japan's Secondary Schools: Exploring Teachers' Perceptions” (『立命館産業社会論集』第58巻第4号) 1-18頁	2023. 3
前田 信彦	論文(単著)	“Active Aging in the Community for Japanese Elderly:Impact of Pre-Retirement Occupational Skills on Elderly People's Community Involvement” (Asia-Japan Research Institute of Ritsumeikan University Asia-Japan Research Academic Bulletin, 3 (31)) 1-14頁	2022. 4
	研究発表等 (共同)	「キャリア教育と社会正義 —オルタナティブなキャリア教育の探究—」(日本キャリア教育学会 第44回研究大会)	2022.11

松島 剛史	著書(分担執筆)	『スポーツの近現代：その診断と批判』(有賀郁敏編, ナカニシヤ出版)311-330頁	2023. 3
	論文(単著)	「ラグビーワールドカップ2019日本大会にみるレガシー概念の拡張：大会を開催する立場に注目して(上)」(『立命館産業社会論集』第58巻第2号)53-71頁	2022. 9
	論文(単著)	「ラグビーワールドカップ2019日本大会にみるレガシー概念の拡張：大会を開催する立場に注目して(下)」(『立命館産業社会論集』第58巻第3号)85-102頁	2022.12
松田 亮三	論文(単著)	「揺らぎを公衆衛生の備えに織り込む：日本における新型コロナウイルス感染症への2020年の対応から」(『地域社会学会年報』第34巻)12-25頁	2022. 5
	研究発表等(単独)	「刑事施設における医療の同等性を担保するための政策 欧州の議論と取り組み」(日本刑法学会関西西部会令和4年度夏期例会)	2022. 7
	研究発表等(単独)	「刑事収容施設の医療体制—欧州を中心とした公衆衛生アプローチの国際的動向」(第81回日本公衆衛生学会総会)	2022.10
	研究発表等(単独)	「普遍医療給付の徹底に向けた課題 医療機構論からの検討」(貧困研究会第15回研究大会)	2022.10
三笠 利幸	論文(単著)	「『機械的硬直化』する近代人：「資本主義の機械的化石」という解釈から『倫理』論文を解放する」(『立命館産業社会論集』第58巻第2号)37-52頁	2022. 9
宮尾 万理	論文(単著)	“L2 learners' use of linguistic and visual discourse information during the production of English referring expressions” (Ritsumeikan Studies in Language and Culture, 34巻3号)119-133頁	2023. 3
	論文(共著)	“Does the Common Test measure the thinking skills necessary for the 21st century?” (Annual Review of English Language Education in Japan, Volume 34)81-96頁	2023. 3
村田 観弥	著書(分担執筆)	『障害理解のリフレクション：行為と言葉が描く〈他者〉と共にある世界』(株式会社ちとせプレス)	2023. 3
	研究発表等(単独)	「身体は思考する—障害理解批判と自己変容の疑似体験—」(企画/司会者：金丸彰寿(神戸松蔭女子学院大学)報告者：大山正博(武庫川女子大学)戸野塚厚子(宮城学院女子大学)村田観弥(立命館大学)指定討論者：片岡美華(鹿児島大学), 日本教育学会第81回大会(於：広島大学・Web開催)ラウンドテーブル)	2022. 8
柳原 恵	論文(単著)	「東北のおなごたちが読んだ森崎和江」(『現代思想』50巻13号)309-323頁	2022.11
	研究発表等(単独)	「〈辺境〉から日本のフェミニズムを再考する—東北・九州の思索と実践を中心に」(同時代学会関西研究会第33回関西研究会)	2022.11
	研究発表等(単独)	“Feminism in Northeast Japan: Focusing on the Life-Writing movement and the Self-Expression Activities of Young Rural Women.”(International Conference “Missing Bodies, Missing Voices: Ordinary Lives and the Reframing of ‘Postwar Japan’”, University of Oxford)	2023. 3
	研究発表等(単独)	「岩手の〈おなご〉は 森崎和江をどう読んだのか」(立命館大学生存学研究所他主催シンポジウム「地域・民族・性の交差を／から見つめる森崎和江」, 立命館大学)	2023. 3
	その他(単著)	「『この地』から見る戦争の足跡」(『地域女性史研究』3号)	2022.10
	その他(単著)	「書評：郡山吉江著『しかし語らねばならない』(共和国, 2022年)」(『週刊読書人』3464)	2022.11

柳原 恵	その他(単著)	「書評:折井美耶子著『地域女性史への道:祖母たち・母たちの物語を紡ぐ』」(歴史科学協議会編『歴史評論』875号)100-104頁	2023. 3
	その他 (単独講演)	「ジェンダー平等とは～誰もが生きやすい社会を目指して～」(岩手県男女共同参画センター「2022年度いわて男女共同参画サポーター養成講座」)	2022. 7
	その他 (単独講演)	「東北農村女子青年が生んだフェミニズム 地方から考えるジェンダー平等とエンパワーメント」(2022年度立命館オンラインセミナー「SDGsを考える」)	2022. 7
	その他 (単独講演)	「ジェンダーとダイバーシティの視点を活かそう～誰もが過ごしやすいキャンパス環境のために～」(立命館大学男女共同参画推進リサーチライフサポート室)	2022. 9
吉田 誠	論文(単著)	「全自動車準備会の結成と運動方針の展開:産業復興への取り組みから「生産復興闘争」へ」(『立命館産業社会論集』第58巻第1号)85-103頁	2022. 6
	論文(単著)	「生産復興運動から生産復興闘争へ:1947年後半期における日産労組の運動方針の展開」(『立命館産業社会論集』第58巻第2号)1-15頁	2022. 9